

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：34301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06724

研究課題名(和文)ハイデッガー「黒ノート」の研究 「計算的思考」の分析を中心に

研究課題名(英文)A Study of Heidegger's Black Notebooks: Analysis of "the Calculative Thinking"

研究代表者

田鍋 良臣 (Tanabe, Yoshiomi)

大谷大学・文学部・助教

研究者番号：90760033

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「計算的思考」という概念の分析を軸に、ハイデッガーの遺稿「黒ノート」を、前期から後期へ向かう彼の思想動向に即して読み解くことで、そこで語られる特異なユダヤ論の真意とその背景の解明に取り組んだ。

主な研究成果は、以下の3点である。現在「反ユダヤ主義的」とみなされているユダヤ論の背景には、「計算可能性」の問題に依拠した、ユダヤキリスト教批判が存している。この批判はまた、「存在の思索」による信仰の間接的な擁護を担うものとして特徴づけられる。この観点から、計算的思考に対して信仰的心情を重んじたパスカルの護教論が積極的に評価される。

研究成果の概要(英文)： This study analyzed the Heideggerian concept "calculative thinking" (rechnendes Denken), and attempted to clarify the true intention of his argument about Jews by referring to his transition of thought as seen in his posthumous works "the black notebooks".

The main outcomes of the study are as follows: (1) In the background of his argument about Jews lies his criticism of the Judeo-Christian tradition founded on the problem of "calculability". (2) In this criticism it can be seen that the idea "thinking of being" indirectly defends religious faith. (3) And it is for this reason that Heidegger places importance on Pascal's apologetics and its emphasis on the feeling of religious faith over calculative thinking.

研究分野：宗教哲学

キーワード：ハイデッガー 黒ノート 計算的思考 ユダヤ キリスト教 パスカル

1. 研究開始当初の背景

(1) 2014年春にハイデッガーの遺稿「黒ノート」の刊行が始まった。そしてそのなかに記された、「計算的思考」の問題を特徴とするユダヤ人(ユダヤ教)批判をめぐって、激しい論争が巻き起こっている。「黒ノート」を編集したトラヴニーは、『ハイデッガーとユダヤ世界陰謀の神話』を出版し、「黒ノート」の思想を「存在史的反ユダヤ主義」と断じた。これに対して、フォン・ヘルマンが反論し、编者によるこのような悪意あるレッテル張りは読者を「有害な混乱」へ誤導すると非難した。さらにこの「スキャンダル」は、マスコミの格好のターゲットとなり、目下真偽不明のさまざまな報道が入り乱れている。この状況下で求められるのは、「黒ノート」に関する冷静で着実な研究成果であろう。しかしながら、公刊から日が浅いこともあり、いまだ研究が十分進んでいるとはいえない。ただ注目に値するものとして、「黒ノート」刊行の翌月に京都で行われたヴィルツの研究講演がある。研究代表者は縁あって、おそらくは世界初の「黒ノート」に関するこの講演原稿を邦訳する機会に恵まれた。この講演でヴィルツは、「黒ノート」の内容を概略しつつ、問題のユダヤ論を「存在史的な反ユダヤ主義」と断ずる一方で、それがハイデッガーの思想全体にとってみれば「省略することも可能な(……)根本的に馬鹿げた添え物」であるともみなしている。

(2) だがそもそも「黒ノート」の言辞は反ユダヤ主義、つまりナチズムに代表されるような犯罪的差別主義に基づく「ヘイト・スピーチ」なのか。実はハイデッガーは、「黒ノート」(「注釈 I-V」)のなかで、自身のユダヤ論について「反ユダヤ主義とは関係ない」と注記するとともに、ドイツで吹き荒れていた反ユダヤ主義に対して「きわめて愚かで忌まわしい」と非難している。そうである以上、この発言を真剣に検討することなしに、ハイデッガーの思想を反ユダヤ主義だと決めつけてしまってよいものだろうか。とはいえ、「黒ノート」のユダヤ論がハイデッガーの存在の思索に「まったく関係ない」とも言い切れない。なぜなら、ハイデッガー自身「ユダヤ人たち(Judentum)」をアメリカニズム、ソ連共産主義、そしてナチズムと並ぶ「巨大なもの(das Riesige)」の一角に位置づけているからである。この思想は明らかに、後に科学技術批判へと展開していく、ハイデッガーのいわゆる「存在史的思索」に固有なものである。

2. 研究の目的

「黒ノート」をめぐる以上の現状確認から、以下の2つの問いが浮上する。

- (1) 「反ユダヤ主義とは関係ない」というなら、「黒ノート」でのユダヤ論の真意は何

か。

- (2) このユダヤ論はハイデッガーの存在の思索にとっていかなる意味をもつのか。

本研究の目的は、「黒ノート」のなかで語られた事柄を、ハイデッガーの思想動向のうちに位置づけることを通じて、問題の言説の存在史的な意味と背景を明らかにし、これによって、「反ユダヤ主義」に限定されない、「黒ノート」の新たな解釈可能性を提起することである。

3. 研究の方法

この目的を達成するために、本研究は「計算的思考」という概念に注目する。なぜならこの問題こそ、前期から後期へ向かうハイデッガー中期の思想的展開にとって決定的な役割を果たしているだけでなく、「黒ノート」におけるユダヤ論の要点をもなしている、と推察されるからである。

ここから本研究では、計算的思考の分析を軸に、以下の4つの研究課題を設定し、2015年度には(1)と(2)、2016年度には(3)と(4)に取り組む研究計画を立てた。

- (1) 計算的思考という問題系をハイデッガーの思想動向のうちに位置づける。
- (2) 算定不可能な神の意義をハイデッガーの思想動向のうちに見定める。
- (3) 計算的思考に依拠したユダヤ論の本質が科学技術批判にあることを突きとめる。
- (4) 「反ユダヤ主義」に限定されない「黒ノート」のユダヤ論の新たな解釈可能性を提起する。

4. 研究成果

(1) 2015年度は、「黒ノート」の思想をハイデッガーの思想動向に即して読み解くことで、ユダヤ論の要諦をなす計算的思考の背景を解明することに専念した。主な研究成果は以下の4点にまとめられる。

「存在史(Seinsgeschichte)」や「本質現成(Wesung)」、「性起(Ereignis)」など、従来は中・後期思想と考えられてきた諸概念が、1931-32年頃の「黒ノート」のなかで確認できる。

問題のユダヤに関する言及は1938-39年頃に登場するが、その要点となる「計算」の問題はそれ以前にユダヤキリスト教の神と結びつけられて語られている。

「計算可能な神」と特徴づけられるユダヤキリスト教の神に対して、ハイデッガー

は自身の依拠する神（最後の神、既在の神々）を「算定不可能なもの」として対置する。

計算可能とされるユダヤ キリスト教の神は、近代的な科学技術的世界観と親和性をもち、他方で算定不可能な神は後の神話的な「四方界 (Geviert)」の思想に発展していく。

なお研究の一環として、「黒ノート」刊行とともに持ちあがったハイデッガー全集の改ざん問題についても調査した。マールバッハのドイツ文学資料館 (Deutsches Literaturarchiv Marbach) に訪問し、ハイデッガーの直筆原稿を確認したところ、ハイデッガー全集第 69 巻に収録された 1938 年頃のものと思われる文章 (一段落) が、全集版では削除されていた。当該箇所には「反ユダヤ主義的」とみなされうる文言が書かれているのだが、この改ざんが編者の判断なのか、誰かの指示によるものなのかは判然としない。いずれにせよこのことは、クロスターマン社版ハイデッガー全集の信頼性にかかわる問題であり、他にも同様の事案がないかを含め、引き続き調査・研究を行う必要があるだろう。

(2) 2016 年度は、ユダヤ論と科学技術論とのつながりを解明したうえで、「反ユダヤ主義」には限定されない「黒ノート」の解釈可能性を提示する予定であった。しかし研究が進むにつれて、「黒ノート」のユダヤ キリスト教批判が単純なものではなく、西洋の歴史や文化全体にかかわったものであり、とりわけ信仰と思索、宗教と哲学をめぐる込み入った問題が中心テーマになっていることがわかってきた。ユダヤ キリスト教批判が件のユダヤ論の背景をなすのであれば、新しく浮上したこれらの問題を整理し、分析する必要がある。そのため本研究では当初の計画を変更し、「黒ノート」における信仰と思索の関係性の解明、およびそれと関連する、ハイデッガーのパスカル解釈の分析に取り組んだ。主な研究成果として、以下の 4 点が挙げられる。

ハイデッガーは信仰と思索の間に (厳密には信仰に対する思索のかかわり方のうちに)「裂目」を指摘し、そのなかで信仰と思索は「相互承認」という独特な関係にあると考えている。

「黒ノート」に特徴的なキリスト教 (神学) 批判には、存在の思索による間接的な信仰擁護の可能性が存している。

ハイデッガーはパスカルの思想を、信仰による近代合理主義的な世界観の基礎づけ (あるいは補完) と評価する一方で、そこ

に決定的な「存在忘却」を指摘する。

しかしパスカルのいわゆる「心情の論理」と「理性の論理」の区別のうちには、存在の思索にかかわる積極的な「ある本質的な痕跡の予感」が認められている。

本研究を通じて、「黒ノート」における「計算的思考」の問題がハイデッガーの特異なユダヤ キリスト教批判に根ざしていること、および、そこには信仰と思索の関係をめぐる宗教哲学的な問題がかかわっていること、そしてそれに関連して、ハイデッガーがパスカルの思想に注目していること、を明らかにした。今後は、これらの論点が問題とされるユダヤ論にどうかかわっているのかについて、引き続き研究を進めて行く。またそれとあわせて、「黒ノート」刊行以降に再燃した、ハイデッガーの「ナチズム問題」に関して、本研究の成果を踏まえて取り組むことにする。

< 引用文献 >

Peter Trawny, Heidegger und der Mythos der jüdischen Weltverschwörung, Frankfurt a. M.: V. Klostermann, 2014

Friedrich-Wilhelm von Herrmann, Kein systematischer Baustein des Denkens: philosophisch belanglos, Meta: Research in Hermeneutics, Phenomenology, and Practical Philosophy, vol. VI, No. 2, 2014, 637-638

Markus Wirz, Der Stellenwert von Martin Heideggers ‚Schwarzen Heften‘ im Kontext des seynsgeschichtlichen Denkens, in Vortrag für den Heidegger-Forschungskreis an der Universität Kyoto, Japan, 20. 4. 2014

マルクス・ヴィルツ、田鍋良臣訳、ハイデッガー「黒ノート」の位置価、文明と哲学、第 7 号、2015、207-223

Martin Heidegger, Anmerkungen I-V (Schwarze Hefte 1942-1948), Gesamtausgabe, Bd. 97, Frankfurt a. M.: V. Klostermann, 2015

田鍋良臣、ハイデッガー「黒ノート」の研究「考察 II-VI」を中心に、哲學論集、査読有、第 62 号、2016、1-20

田鍋良臣、ハイデッガーにおける信仰と思索「黒ノート」を中心に、日本宗教学会第 75 回学術大会、2016 年 9 月 11 日、早稲田大学 (東京都新宿区) (宗教研究、第 90 巻別冊、2017、204-205、要旨掲載) <http://jpars.org/journal/bulletin/wp-c>

content/uploads/2017/04/vol_90_rivised.pdf

田鍋良臣、ハイデッガーのパスカル論
「黒ノート」に依拠して、大谷學報、査読有、第96巻2号、2017、1-22

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計2件)

田鍋良臣、ハイデッガーのパスカル論
「黒ノート」に依拠して、大谷學報、査読有、第96巻2号、2017、1-22

田鍋良臣、ハイデッガー「黒ノート」の研究
「考察 II-VI」を中心に、哲學論集、査読有、第62号、2016、1-20

[学会発表](計3件)

田鍋良臣、ハイデッガーにおける信仰と思索
「黒ノート」を中心に、日本宗教学会第75回学術大会、2016年9月11日、早稲田大学(東京都新宿区)(宗教研究、第90巻別冊、2017、204-205、要旨掲載)
http://jpars.org/journal/bulletin/wp-content/uploads/2017/04/vol_90_rivised.pdf

田鍋良臣、ハイデッガー神論再考
「黒ノート」刊行から見えてきたもの、大谷大学哲学会春季研究会、2016年3月3日、大谷大学(京都府京都市)

田鍋良臣、ハイデッガー「黒ノート」における神について、日本宗教学会第74回学術大会、2015年9月5日、創価大学(東京都八王子市)(宗教研究、第89巻別冊、2016、193-194、要旨掲載)
http://jpars.org/journal/bulletin/wp-content/uploads/2016/02/vol_89.pdf

6. 研究組織

(1)研究代表者

田鍋 良臣 (TANABE, Yoshiomi)
大谷大学・文学部・任期制助教
研究者番号：90760033